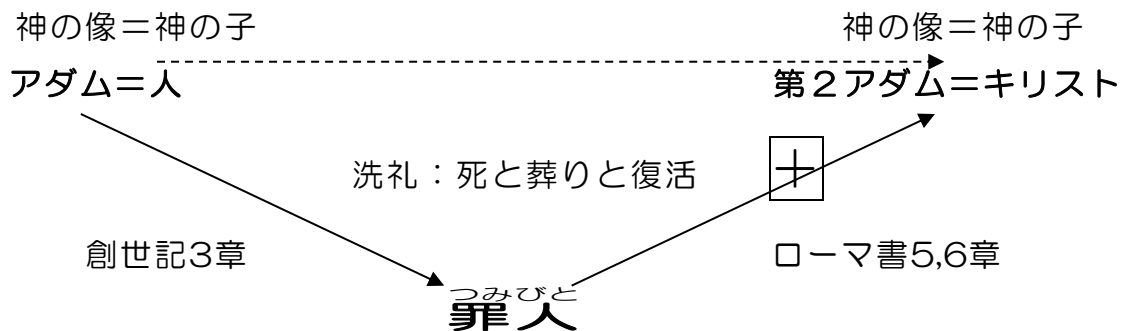


■ New Creation Seminar101① 『救いの枠組み』

a. キリストの十字架による「救い」の枠組み

『まず、十字架の「救い」の枠組みを確認しましょう。そもそも人間は、神の「^{かたち}像」に似せて造られ「神の子」として創造されました。けれども、その立場はアダムの墮罪によって失われ、罪に支配された存在、つまり「^{つみびと}罪人」として生きるしかない存在でした。けれども、目に見えない神の^{かたち}像であり「第二のアダム」であるイエス・キリストを信じ、洗礼を受けることによって、十字架の「死と葬りと復活」にあやかるとき、罪の呪縛から解放されます。キリストの十字架にあやかった者は、神の^{かたち}像が「回復」され、「神の子」として生きることが許されるのです。つまり、キリストの与えて下さる「救い」とは、人間が創造された時の「本来の命と姿」を、回復させ、取り戻して生きることなのです』



創世記 1.27 神の「^{かたち}像」 ⇒ 神の「^{かたち}」 (C f) 創世記 5.1-3)
 同 3.6-7 目が開けて⇒裸の「^{かたち}」を隠す
 コロサイ書 1.15 御子 ⇒ 見えない神の「^{かたち}」 = 「^{かたち}」
 ローマ書 5.12 一人の人 ⇒ 「^{かたち}」
 同 5.14 来るべき方 ⇒ 「^{かたち}」
 前もって表す者=アダム⇒「^{かたち}」の「^{かたち}」のアダム=キリスト
 同 6.6-7 罪に「^{かたち}」された体⇒罪の奴隷
 同 6.11 キリストに結合⇒「^{かたち}」に対して生きる

b. 「^{つみびと}罪人」として、十字架で死ぬ！

『私たちは、キリストの十字架に「罪人である存在」として死にました。キリストと共に死ぬことによって、罪の支配の呪縛から解放されました。その結果、罪の奴隷という立場から、自由に生きることができる神の子という立場に変わったのです』
 ローマ書 6.17-18 罪から「^{かたち}」され、義に仕える者になりました。
 Iコリント 1.9 神の子=イエス・キリストの「^{かたち}」に入れられた。